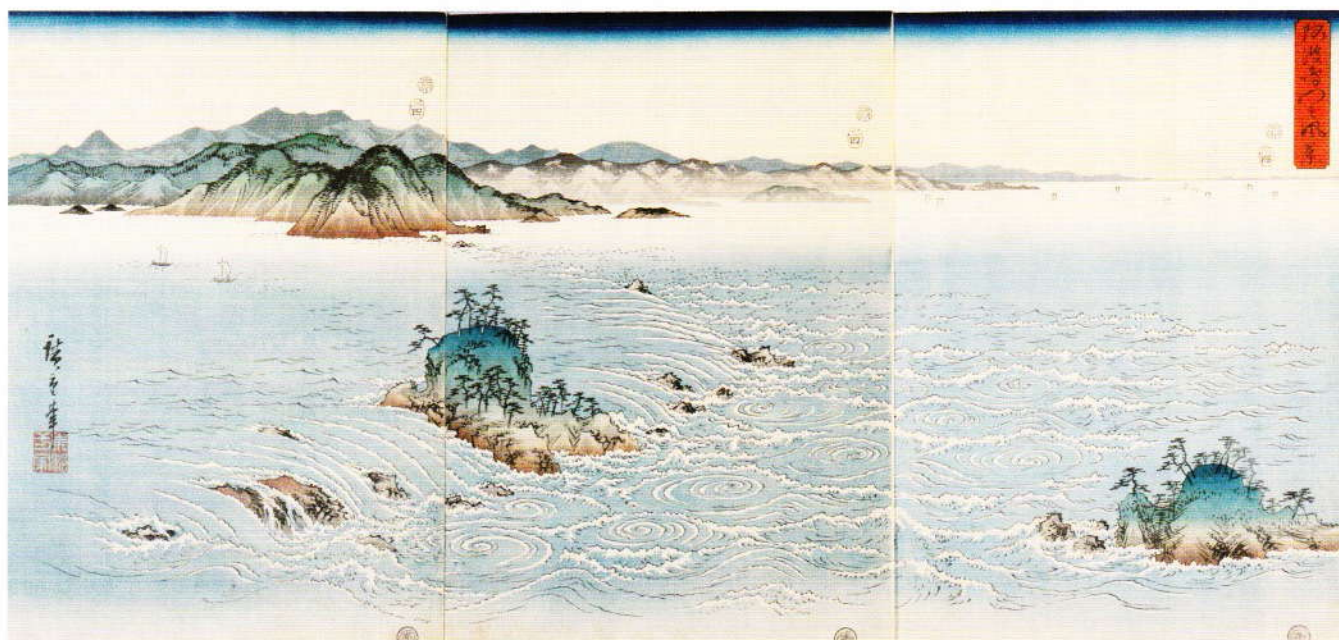




那珂川町馬頭広重美術館友の会ニュース〈第10号〉

風の色



歌川広重「阿波鳴門之風景」

安政四年（一八五七）四月 大判三枚続 個人蔵

徳島県鳴門市と兵庫県淡路島に挟まれた鳴門海峡では、満潮時と干潮時に轟音を発しながら大小の渦を巻いて流れる渦潮が有名。本図は徳島県側より望む鳴門の景を描いたものである。

ところがどうやら、広重が実際に鳴門まで出かけ、そこでスケッチしたものを描いたわけではないようだ。淵上旭江著『山水奇観』（前編は寛政十二年（一八〇〇）刊）という本に本図の元となったと思われる挿絵が見つかっている。比べてみれば一目瞭然。全体の構図、視点の設定（広重の方がやや右寄りではあるが）が類似していることに気づくだろう。しかし明らかに鑑賞作品としての完成度でいえば、広重のほうが優っている。渦潮を効果的に見せるために、余分な部分は排除しているのだ。

本作品はどちらかといえば渦潮の激しさを描いたものではない。俯瞰（かふん）（高いところから見下ろす）しているために、ゆったりと広い視野で海峡全体を見渡している。これは大判三枚続というワイドスクリーンならではの構図。鳴門の渦潮を雄大なスケールでとらえた広重最晩年の作品である。

さて、この作品は広重の「雪月花」三部作の一枚といわれている。組になるのは他に、雪景を描いた「木曾路之山川」と月夜を描いた「武陽金澤八勝夜景」。つまり本図は「雪月花」中の花にあたる。そうはいっても花なぞ絵のなかのどこにも描かれていないじゃあないか、と思うのは少し早計にすぎる。

堂々と描かれているではないか。いくつもの花が……。そう、白い波飛沫（なみしぶき）を花びらに持つ花である。渦潮を花に見立てているのだ。こうした広重の機知もこの優品を際立たせている要素である。

※本作品は開館五周年記念特別展「広重画業展」の後期（十月二十七日（木）～十一月二十七日（日））に出品されます。





美術館と共に

馬頭広重美術館友の会は、美術館が行う事業への協力や支援をすると共に会員の教養、親睦を深めることを目的に平成十二年八月に発会、展覧会や美術館の研修視察、友の会会報の発行、美術館ボランティアなどの活動を行っています。その内容や会員の特典についてまとめました。

より楽しく、身近に

友の会は、側面から美術館活動を応援するとともに、会員相互の交流を深め、美術館をより楽しく、身近なものとし、豊かな生活を送りたい



開館5周年を迎える馬頭広重美術館

と考える皆さんにその機会を提供したいと考えています。現在、馬頭広重美術館には、四百五十あまりの個人、法人会員がいます。

会員は、馬頭広重美術館の展覧会が会員証の提示だけで何回でも無料で観覧することができます。このことは美術館入館者の増加につながっています。

また、鑑賞旅行や講演会にも参加でき、ミュージアムショップの商品が割引されます。鑑賞旅行は、江戸東京博物館や静岡県由比町の東海道広重美術館、山形県天童市の広重美術館と、浮世絵の展覧会を中心に実施してきました。今年三月には、東京国立近代美術館の「ゴッホ展」にも出かけました。

そのほか、美術館が主催する講演会や講習会の案内、友の会の会報により、美術館の最新の情報が提供されます。



心温まる二日間

友の会会員になり、初めて長野県小布施方面の見学会に参加させていただきました。

北斎が最晩年を過ごした北信濃の小さな山里、小布施。八十九歳の北斎が描いた岩松院の「鳳凰図」は、畳二十一枚分もある天井絵。八方睨みの鳳凰と言われているそうですが、いったい何を睨んでいるのか聞いてみたくなるほどの鮮やかな色彩と迫

会員募集中

美術鑑賞や美術館、浮世絵や歴史に興味をお持ちの方、もっというくらいなことを知りたい方、馬頭広重美術館友の会に入会されませんか。

小布施北斎館で

力でした。また、北斎館内の屋台の天井絵、肉筆画、版本、錦絵等の作品。高井鴻山という偉大なパトロンとのめぐり逢いにより、これらの数々を残すことができた北斎はとても幸せな晩年だったのではないのでしょうか。中島千波館では、現代の日本画も堪能しました。

二日目は善光寺の門前町長野へ。長野県立信濃美術館・東山魁夷館。

以前に娘と訪れた時は、あいにく休館日で見学できなかった所です。難しいことはわかりませんが、凡人には思いつかないような構図、青と緑の色彩のすばらしさ、絵のそれぞれにドラマを感じながら、そしてあまりにも時間が早く過ぎてゆくのを恨めしく思いながら美術館を後にしました。以前から憧れていた小布施と東山魁夷の世界に浸り、時間は瞬く間に過ぎてしまいました。心温まる素敵な二日間をありがとうございました。

栃木県下都賀郡壬生町 清水貞子

年会費は、一般会員三千円（学生は千五百円）、特別会員一万円、法人会員一口三万円、それぞれに特典が付与されます。問い合わせ、お申し込みは友の会事務局（〇二八七一九二一一九九）までお願いします。



美術館は

満五歳

馬頭広重美術館は平成十二年十一月三日に開館、もうすぐ満五歳です。五周年を迎えるにあたり、その足跡をたどってみました。

青木コレクションの寄贈

きっかけは、兵庫県芦屋市在住の青木氏からのコレクションの寄贈でした。氏家、佐久山、西那須野を中心に実業家として活躍された青木藤作氏が収集した歌川広重の肉筆画を

中心とするもので、阪神淡路大震災に被災された遺族から、「コレクションを一括して所蔵、展示してくれる場所に」との申し出でした。町は栃木県の支援を受け、地域振興や観光、文化の拠点として美術館建設に取り組みました。

優れた建築

美術館は、マロニエ建築賞、村野藤吾賞、建築業協会賞、スピリット・オブ・ネーチャー・国際木の建築賞、日本建築学会作品選奨、公共建築賞特別賞など、国内外の建築賞を受賞しています。広重の浮世絵の画風をモチーフとした、隈研吾氏による設計で、大屋根を用い、美術館全体を格子状の木材で覆う意匠。北側に広

がる豊かな緑を活用しつつ周りの景観から突出せず、自然に溶け込むように配慮されています。

また、屋根、壁に地元産の杉、仕上げ材として、床に白河石(芦野石)、壁に烏山和紙など地場産の自然素材を用いて、簡素でありながら豊かな空間を実現した建築の完成度が高い評価を得ています。

美術館への住民参加

美術館整備基金への寄付をはじめとして、ボランティアの参加や美術館の名称公募など馬頭広重美術館は、住民参加の美術館づくりを進めてきました。

美術館整備基金へは、美術館整備に役立てて欲しいとの思いを込めて

町内外二千件、一億四千八百万円を超す浄財が寄せられました。これらは、美術館建設費の一部、歌川広重「東海道五拾三次之内」(保永堂版)の作品購入などに充てられました。

また、美術館活動への積極的な参加を希望される方には、展示室の監視など美術館ボランティアとしての活躍の場があります。地元馬頭、小川の方を中心に宇都宮市、茨城県城里町などから、現在約六十名の方々がボランティアとして活躍されています。

※本年十月一日、馬頭町と小川町の市町村合併に伴い、「那珂川町馬頭広重美術館」に館名が変更となりました。新たな気持ちで、今後も皆様に愛される美術館を目指して活動を行っていききたいと思います。

となつて伝わってくるのでしょうか。ひつかり画のような彩色、大胆な線、それが迫力となり、鯉一匹一匹の表情の豊かさ、志功の人柄が表れていました。

人との出会い、よき理解者に恵まれた志功の人間性に触れ、心温まる見学会になりました。私もボランティアの仲間との出会いを大切に、こういう機会に恵まれたことに感謝いたします。(水曜班 五月女 トミノ) ※ボランティア部では、年二回研修旅行を行っています。



身近に感じた志功展

宇都宮美術館は、マグリットの「大家族」以来の訪館でした。学芸員の説明がとても分かりやすく、興味を膨らませて、「棟方志功展」へと進めました。

私の若い頃すでに志功は有名で、テレビや週刊誌などで作品を見る機会がありました。裸婦像にこだわった作品が多く、好きになれませんでした。その一方で、無邪気な笑いや顔がつくほどに近づけて制作している姿に親しみを感じていました。

今の自分はどう感じるのだろうか、



学芸員からのひとこと。展覧会の会期について

那珂川町馬頭広重美術館は、浮世絵や日本画を中心にして展覧会を開催しています。しかし、これらの美術品は大変、光に弱く色が褪せやすいため、照度を低くして展示しています。それでも保存のためには、作品を長期間展示し続けることは控えなければなりません。そこで、当館ではおおよそ1ヶ月単位で作品を総入れ替えにしています。つまり常設展というものはありません。そのため、もしかするとお目当ての作品が展示されていないこともあります。

しかしながらこのことは、常に新鮮な視点からいろんな作品をご鑑賞いただけるということでもあります。当館では毎回、作品を何らかのテーマに沿って展示しています。これからもご来館のたびに皆さんに新しい発見をしていただけるよう、知恵を振り絞って展覧会を開催していきたいと思ひます。我々に遺された貴重な作品を後世に永く伝えていくためにも、当館の展覧会開催方法にご理解をお願いいたします。(学芸員 津田卓子)

企画展 ● 青木コレクション名品展

12月1日(木)～平成18年1月9日(月・祝)

ミュージアムトーク＝12月3日・17日、1月7日(全て土曜日)

当館が所蔵する青木藤作氏のコレクションから、厳選された作品をご紹介します。青木氏の多岐にわたる収集傾向をご覧いただくため、浮世絵以外にも川村清雄の油彩画、久保田米遷らの日本画と、様々なジャンルの作品を展示いたします。

川村清雄「楊柳」(当館蔵)



企画展 ● 浮世絵の基礎知識 浮世絵ってなんだ？展Ⅱ

1月13日(金)～2月12日(日)

ミュージアムトーク＝1月21日、2月4日・11日(全て土曜日)



広重らの浮世絵版画は、いったいどのようなように生まれるのか。作品制作の背景を知ることは、より一層これからの鑑賞を楽しくさせてくれるはずです。

歌川広重
「流行緑日詣 四ツ谷老婆尊」(個人蔵)

企画展 ● 江戸の大衆文化と行楽展

2月16日(木)～3月21日(火・祝)

ミュージアムトーク＝2月18日、3月4日・18日(全て土曜日)

江戸時代、娯楽を求める人々はどのようなところに集っていたのでしょうか。またそこでは、どのような楽しみがあったのでしょうか。吉原や芝居町、両国、飛鳥山などを描いた浮世絵を通して、江戸庶民の姿をご覧ください。

歌川広重「富士三十六景 相模七里か浜」(当館蔵)



開館5周年記念特別展 ● 広重画業展

前期＝9月23日(金)～10月23日(日)

後期＝10月27日(木)～11月27日(日)

ミュージアムトーク

前期 9月24日、10月8日・22日(全て土曜日)

後期 10月29日、11月12日・26日(全て土曜日)

歌川広重の代表作から稀品まで120点を前後期に分けて展示(前後期全作品展示替)。あらためて広重の絵師としての人生を振り返る展覧会です。全作品をカラーで掲載した図録(2,100円)も販売中。



歌川広重「東海道五拾三次之内 日本橋(異版)」(個人蔵)

■特別展観覧料＝大人800円(720円)
高・大学生500円(450円)／小・中学生150円(135円) ()内は20名以上の団体料金
※70歳以上、小学生未満は無料
※障害者手帳をお持ちの方、付き添い1名は半額

● 記念講演会開催のお知らせ ●

11月13日(日) 午後1時30分～

聴講無料・定員先着50名・当館視聴覚室にて開催

「広重の東海道五拾三次と保永堂」

元金城学院大学教授 木村 八重子氏

版元の保永堂(竹内孫八)らの手によって、広重の代表作「東海道五拾三次之内」は出版された。その背景に隠された謎に迫る。

企画展 ● 春夏秋冬の暮らし

3月25日(土)～4月23日(日)

ミュージアムトーク＝3月25日、4月8日・22日(全て土曜日)

四季の感覚が希薄になりつつある今日、絵画に描かれた四季を味わうことで、季節の息吹を感じてみてはいかがでしょうか。混乱しがちな太陽暦と太陰暦の暦の違いもわかりやすくご紹介いたします。

尾形月耕「花美人名所台 亀戸臥龍梅」(当館蔵)



● 催しはいずれも午後1時30分より。ミュージアムトークは観覧料が必要。

■ 企画展観覧料＝大人 500円(450円) 高・大学生 300円(270円) 小・中学生 100円(90円)

()内は、20名以上の団体料金 ※70歳以上、小学生未満は無料 ※障害者手帳をお持ちの方、付き添い1名は半額

■ 開館時間＝午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)

■ 休館日＝月曜日 祝日の翌日(祝日の翌日が土、日曜日は開館) 年末年始 ※展示替えのための臨時休館があります